

Graduate School and Faculty of Safety Science **fss** *T. Takatorige*

平成24年12月12日 STBJ総会

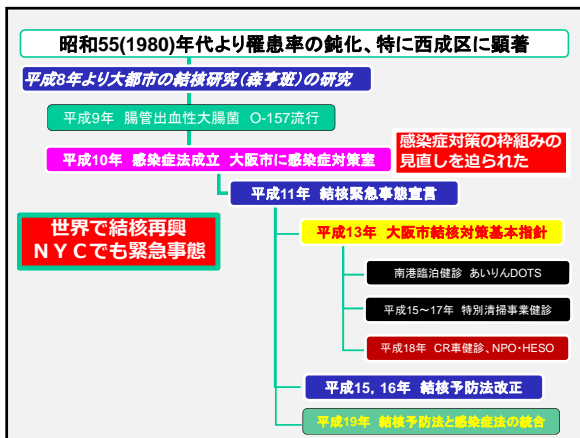
西成特区構想と 今後の大阪の結核対策

関西大学社会安全学部
高鳥毛敏雄

Graduate School and Faculty of Safety Science **fss** *T. Takatorige*

はじめに

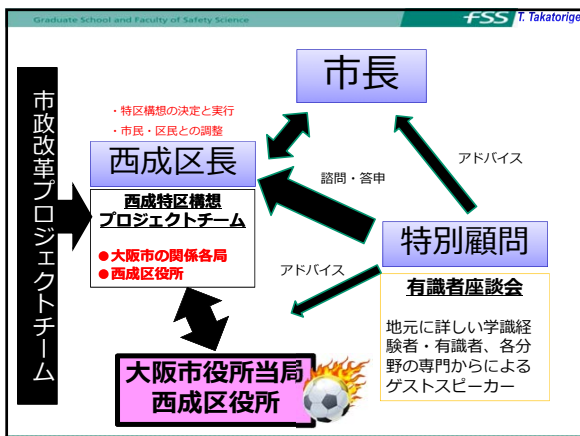
- 大阪市の結核罹患率は全国一高い
- 西成区、あいりん地域の罹患率は特に高い
- 大阪市長の命により特区として西成区を若者が住める地域とする改革が進められている
- 結核問題はその中の重要な改善すべき課題の一つとして位置づけられた
- 大阪社会医療センターのあり方とあわせて、結核対策の方向性が10月に示された
- 現在、行政当局がそれを政策として具現化する段階にある



Graduate School and Faculty of Safety Science **fss** *T. Takatorige*

大阪の結核対策の新たな事態

- 大阪市第2次結核対策基本指針
- 大阪市内に橋下徹市長就任
- 結核予防全国大会
 - ストップ結核パートナーシップ関西の設置
 - 古知新氏の知事、市長への助言
 - 島尾忠男氏の助言
- 西成特区構想プロジェクトチームの設置



Graduate School and Faculty of Safety Science **fss** *T. Takatorige*

大阪市政改革と西成特区構想

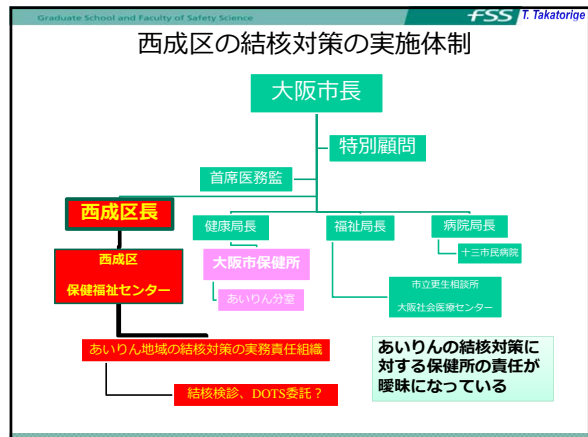
- 市政改革プロジェクトチーム (プラン)
 - 一種の事業仕分けで特区構想とは無関係
 - 大阪社会医療センター規模縮小
- 西成特区構想プロジェクトチーム
 - 24年度に先行実施
 - 通院医療機関等確認制度
 - 結核等の感染症対策の強化
- 西成特区構想有識者座談会
 - 平成25年度からの5年間の具体的な構想を示した

上記の3つが統一された意思決定で進められているわけではない

Graduate School and Faculty of Safety Science fss T. Takatorige

特区構想の中の 地域医療、結核対策について

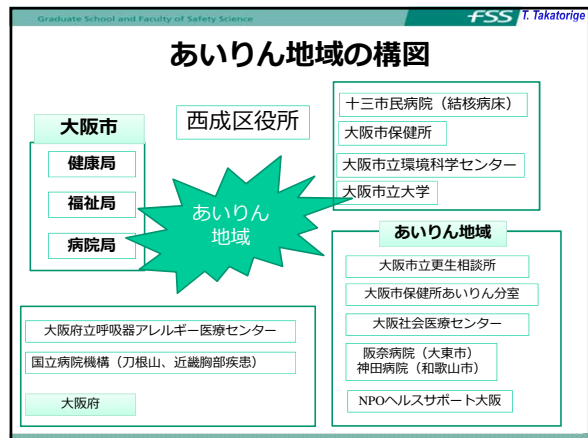
- 大阪社会医療センターは規模縮小するが、依然として拠点病院としての必要性は高いため、経営については民間病院を誘致して、一般市民も利用でき、かつ結核対策、公衆衛生的側面をもたせるような方向性も検討する
- 結核問題はこれまでの延長上の施策では解決できないと判断される。高リスク群を逃さないために、福祉施策との連携を高め、ワンストップサービスとして患者に対する意思決定・対象ができる「結核センター」設置を検討する
- 通院医療機関等確認制度については、定期的評価と負担の見直し
- 受診抑制にならないように丁寧な説明と柔軟な対処、不正な医療機関に対する施策を検討する



Graduate School and Faculty of Safety Science fss T. Takatorige

目の前に現れた課題

- 西成区は、特別区ではない
- 特区構想で、結核問題を包括的に扱うには、行政権限が複雑に分断している
- 分室を強化する方法もあるが、西成区には保健所権限がない
- また、大阪市域は指定都市の中で全国一狭く、医療圏域は市域を超えている
- 大阪市立大学医学部があることにより、市大から適切な医師が供給されないこと、医師の公募の発想がない



Graduate School and Faculty of Safety Science fss T. Takatorige

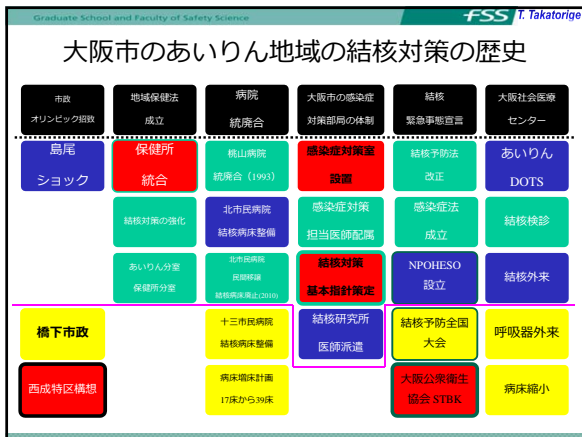
あいりん地域の結核対策の 責任の所在が不明瞭

- 福祉局と健康局
- 市役所と区役所
- 西成区と保健所
- 保健所と分室
- 大阪社会医療センターと保健所
- 特区構想の主体が西成区であるが、それではあいりんの結核対策の責任者は誰なのか（保健所には従来ほど当事者意識が薄くなっている）

Graduate School and Faculty of Safety Science fss T. Takatorige

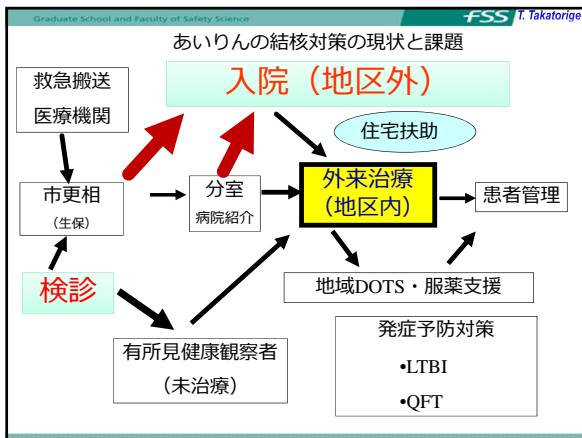
大阪の結核対策の実施体制の課題

- 大阪府と大阪市の役割分担？
- 大阪市の役所と西成区役所の役割？
- 西成区とあいりん地域の関係？
- 大阪の結核医療体制の責任は？
- 結核対策の主体は？



過去10年の対策の概略

- 大阪府保健所体制の強化
 - 結核診査会の一元化と体制強化
 - 医師の補強 (対策監)
 - 保健師保健師数の増加
 - CR健診車の購入
- 結核病院の院内体制の強化
 - 院内DOTSの導入
 - 病院と保健所の退院前カンファレンス
 - 近畿胸部疾患センターのナショナルセンター化
 - 特に呼吸器センター (元高嶋哲也医師)
 - 北市民病院の体制強化
- あいりん地区における民間団体の支援体制
 - NPOヘルスサポート大阪の成立
 - NPO釜ヶ崎支援機構の協力による結核健診
 - サポーティブハウス協議会 (健診とDOTS)



2011年05月 あいりん総合センター、建て替えか耐震補強か 大阪市民タイムス

建設業界の専門紙「建通新聞」によると、大阪府健康福祉局は、西成区にある、「あいりん総合センター」の建物について、調査する予算を2011年度予算に1,200万円計上するという。

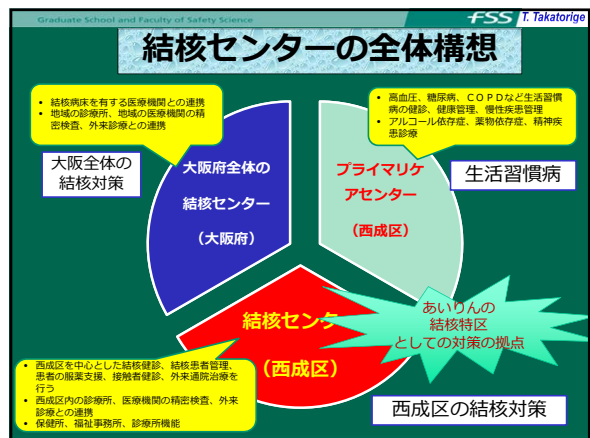
記事によると、同センターは、「昨年9月に行われた平松邦夫大阪市長と橋下徹大阪府知事との意見交換会で、平松市長は『老朽化が著しい。建て替えるか耐震補強するか、廃止も含め国・府とともに早急に方針を固めたい』と強調し、橋下知事も了承している」と報道。

センターは日雇い労働などを紹介する職安や、医療センターが入居、同地域に住む労働者の拠点となっている。

あいりんの施設の見直しが必要になっている

あいりんの結核対策は 保健所と診療所の機能を併せもつ 結核センター的なものが必要

- 結核患者に対するには、健診だけでなく、精密検査、治療、患者支援が一体となって提供される必要がある
- 問題解決のために縦割り行政の弊害を取り除くことが特に必要である
- 結核対策が進まないのは予算不足、マンパワー不足、医師不足、医薬品不足のためではない
- その解決策として、患者の状況に柔軟に合わせてサービスを行える結核センターを設けることが最も効果的、効率的な対処方法である
- 結核対策のマネージメントの役割が期待される





Graduate School and Faculty of Safety Science **FSS** *T. Takatorige*

今を逃すと結核対策の人材がいなくなる

- 現在、基礎医学、臨床医学、公衆衛生行政、結核菌検査の各分野でようやく人材がそろっている
- 現在、かつてない程、結核対策に力を注いでくれる人的資源がそろっている
- これは過去10年、国レベル、大阪府・市レベルの行政、結核医療など結核対策に関わる人々の努力の傾注があったからである
- しかし、結核対策を進める大阪府と大阪市の意志の疎通がなされず、結核対策の行政の目標が共有されないことが続く、急速に萎んでしまうことになる
- このまま放置すると10年後には結核対策に関わる人材がいなくなってしまう
- これらの人材を生かして結核対策を進めることを大阪府、大阪市が協働しての努力することが今最も求められている結核対策の内容である
- 現在の機会を逃すと、結核対策を進める人材や組織がなくなり、予算を増やしても、困難な状況になる瀬戸際になっている
- つまり、大阪市全体の結核対策にとっても、あいりんの結核対策にとっても、大阪全体の対策においても、現在は極めて重要な節目にある

Graduate School and Faculty of Safety Science **FSS** *T. Takatorige*

西成特区構想におけるあいりん地域の結核対策の拡充について

子育て支援、教育環境の充実などの各種施策により、区内に子育て世帯を呼び込むなど、西成区の活性化を図ることを目的とした西成特区構想において、構想実現に向けて様々な課題が山積している中で、あいりん地域の結核事情の改善が図られている。

平成23年3月に策定した「第2次大阪府結核対策基本指針」でも、あいりん地域における結核対策は重点課題として位置付けているが、この西成特区構想の実現に向け、集中的にあいりん地域への結核対策を講じ、あいりん地域の結核事情の改善を図り、西成特区構想実現の一助とするものである。

目標
西成特区構想が契機とする平成29年までに西成区及びあいりん地域における新規結核患者数を半減させることを目標として、集中的に対策を講じていく。

	平成23年 （23年度）	平成29年 （29年度）	平成22年 （22年度）
西成区	28人	18人以下	16人
あいりん地域	16人	8人以下	10人

- 十三市民病院の結核病床17床を22床増床し、39床とする
- 菌陰性結核患者で生活保護を受けなかった者に対しては生活保護とは別立ての生活支援を行う（福祉との連携）
- ワンストップサービスを既存の枠内で検討する

Graduate School and Faculty of Safety Science **FSS** *T. Takatorige*

結核対策

【結核患者等への支援の充実】（平成24年4月から順次実施予定）

- 結核患者への生活指導及び健康相談等の実施
- 「DOTS実施者の集い」の開催
- 「ピアサポーター」の育成・活用

【結核健診の拡大】（平成24年10月から実施予定）

- 社会医療センターにおけるあいりん地域住民を対象とした結核健診の実施
- 社会医療センターの外東患者に対する結核健診の実施
- 南船場台等での居住者や周辺住民を対象としたあいりん地域内結核健診を管理人や町会等と連携して実施
- 生活保護受給者（65歳以上）に対する結核健診をケースワーカー等と連携して実施
- 生活保護新規申請者に対する結核健診をケースワーカー等と連携して実施
- シニスター入居時における結核健診の実施（※平成25年4月から実施予定）

【医師体制の確保】（平成24年10月から実施予定）

- 社会医療センターにおける結核専門外来（月～金）の設置

※医師体制を確保するためには、専門医師の確保が必要であるが非常に厳しい現状である。
→ 大阪府にも専門医師の確保に向けた協力を依頼している。

実施体制の確保

集中的に上記事業を推進するにあたり、体制の整備が必要であり、平成24年8月から西成区に「（仮称）結核専門チーム」を設置し、西成区の結核事情のさらなる改善を目指す。

市内における結核病棟の確保

健診の拡大により、短期的には結核患者の増加が見込まれる中、大阪市内をはじめ大阪府域において結核病棟が極めて少ない状況であることから、病院側に結核病棟の増床を依頼している。
なお、病棟の増床を図るには専門医師の確保が必要であり、大阪府にも確保に向けた協力を依頼している。

Graduate School and Faculty of Safety Science **FSS** *T. Takatorige*

大阪市と大阪府の協議

- 大阪府議会でも取り上げられる
- 大阪都構想の府市合同会議の課題とも位置づけられた
- しかし、大阪府、大阪市の事務当局の話し合いは平行線のまま止まっている

Graduate School and Faculty of Safety Science **FSS** *T. Takatorige*

まとめ

- 大阪市の結核対策は、平成13年から基本指針を作成して結核対策を進めることにより大きな成果をあげた
- 今後は、あいりん地域の中に、患者発見、治療、支援を行う体制づくりを基本とした結核対策の推進が求められている
- 患者の生活支援体制、公衆衛生対策の基盤をつくり、その上で患者の視点にたつた対策を進めていく必要がある
- 「あいりん」地域の結核対策だけを考えると、人材確保、施設整備をすることは困難であり、大阪市、大阪府全体の結核対策の中で位置づけて結核対策を立案する必要がある
- 大阪全体、大阪市の保健医療資源を踏まえて対策案をつくり、協力と支援がないと成功につながらないことを認識し、結核対策を進める必要がある